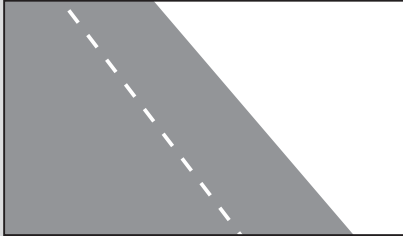


サポートライン ロール 施工手順

■施工方法

1 位置決め

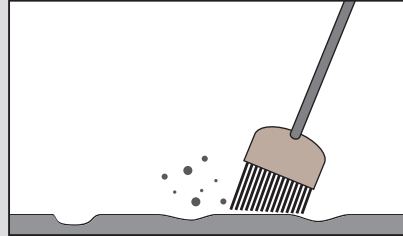
設置位置を決め、作図します。



2 清掃

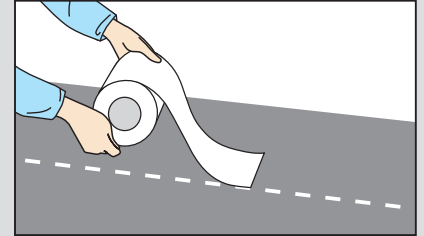
ほうき等で設置面の清掃をします。

水分やゴミ・汚れ等を十分に取り除きます。
凹部分は念入りに清掃を行ってください。
設置面が濡れている場合は施工できません。



3 貼付

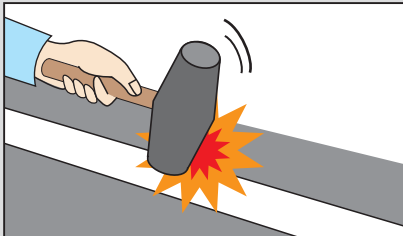
シートを設置面に貼付けていきます。



4 圧着

ゴムハンマーなどで路面の凹凸がシート表面に表れるくらいして圧着して下さい。とくにエッジ部分は十分に圧着して下さい。

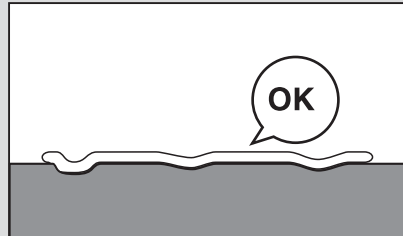
車のタイヤで圧着時はシート上でハンドルをきらないように注意して下さい。
施工量が多い場合は2t程度のタイヤローラを使用すると作業効率が上がります。



5 施工完了

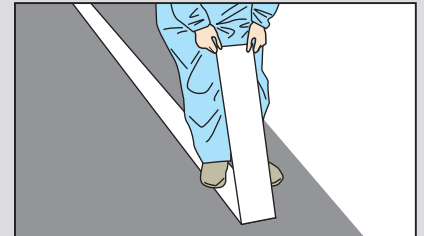
シート圧着後、設置面の凹凸部までシートが接着していることを確認し、施工完了です。

設置面とシートの間に隙間があると、浸水し剥がれる恐れがあります。
圧着後、約10m毎にカッターで切れ目を入れておく事で、万が一剥離が生じた場合に巻き込みによる事故回避につながります。



6 撤去

ゆっくり引っ張りながら剥がします。舗装の目に入って取れない場合はバーナーで燃やし、ワイヤブラシなどで撤去します。



■施工の注意点

- 設置面に水分が残っていたり、ゴミやホコリ、油分などの汚れが付着している場合は剥がれの原因になります。十分に乾燥、清掃を行ってください。
- 施工時の外気温が低いとき(気温10℃以下)は、ガスバーナーなどで設置面の温度を40℃程度になるまで加熱してください。
- バーナー使用時は火気に十分ご注意ください。
- 設置面の適合性・接着性を十分にご確認ください。
- 設置面に凍結防止剤が残留している場合、必ず除去してください。

■施工場所の注意点

※下記の場所については原則施工を避けてください。

- 水没する場所。(雨が降ると水たまりになる場所など)
- 設置面に防水・撥水塗装がされている場所。
- 設置面に亀裂が入っている場所。
- コンクリート新設舗装から3ヶ月以内の設置面。表面のレイトランスにより接着性を損ねる原因になります。
- ロードヒーティングが施設され稼働している時。
- アスファルト打設直後の設置面。
- 設置面の凸凹が激しい場所。(アスファルト・コンクリート路面が劣化している場所など。)
- 車のタイヤの負荷が、かかる場所。(車が急発進・急停止する、ハンドルをきる場所など)

- 公道への施工は道路管理者の許可が必要です。
- その他、設置面に関して、ご質問がございましたら、当社までお問い合わせください。

※裏面に「保管方法」等が記載されておりますので 必ずお読みください。

■保管方法

- 直射日光、水漏れ、高温、低温、多湿を避け、火気のない屋内で保管してください。
- 製品を変形させて保管しないでください。

■廃棄方法

- 本製品を廃棄する際は、各自治体の条例に従い、適切に処理してください。

■免責事項

- 第三者の故意、過失による不具合、天災、地盤や周辺環境に起因する製品の損傷、不具合。
- 経年劣化による汚れ、摩耗による製品の劣化や剥離。
- 万一、材料に起因する不都合が生じた場合は、材料のみ代替提供いたします。二次的損害については、保証いたしかねますのでご了承ください。
- 本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不都合による損害・損失。